

県内経営トップ 年頭所感

多くの県内企業・団体が新年の業務をスタートさせた4日、それぞれの経営トップは年頭の決意を示した。4年目に入る新型コロナウイルス禍にエネルギー・原材料価格の高騰が加わる厳しい環境下だが、新型コロナとの付き合い方も次のステージに移りつつある。各リーダーからは現状を打破し、飛躍していくという力強いメッセージが発信された。主なトップの言葉を紹介する。

(本紙取材班)

高付加価値化競う

矢野秀弥山形丸魚会長

物価高が続き、当社にも消費者にも厳しい環境だが、新しい環境だが、日本の再生するチャンスとも捉えられる。国民はもつと日本に自信を持つといい。価格競争から脱却し、付加価値を高める競争をすることが現状を改善する唯一の方法だ。創業70周年を迎える今年、新しい山形丸魚とともに築いていこう。

農業振興にまい進

折原敬一JA山形中央会

農業は単に食料を生産するだけではなく、国民の命や地域の根幹を支える重要な使命を担っている。農業や地域社会を取り巻く環境は厳しく、先を見通すことは難しい。今こそ協同組合の原点に立ち返り、現場目線を大切にしながら、本県農業や農村の振興にまい進していく。

チャレンジ力必要

平井康博ヤマコ一社長
今年、ユトリアグループは80周年を迎える。これから90年、100年と生き残つていくためには、すべてのことに興味を持ち、何事にもチャレンジする力が必要だ。今年のえど「癸卯(みずのとう)」のごとく、ユトリアルグループも努力が実り、花が咲くものと確信している。

営業活動磨き上げ

米田總一郎第一貨物社長
特別積み合わせ事業は昨年11月以降前年割れと厳しい。物価動向、欧米と中国の停滞予測などから非常に厳しい年となるのではないか。社員を大切にし、採用強化に努め内製化を促進すること、地道な営業活動を徹底的にプラットシユアップすることなど足腰を鍛え、さらなる飛躍へ備えたい。

現状打破へ力強く

未来志向、行動的に

佐藤隆彦ヤマコ一社長
今はVUCA(予測不能)

の時代と言わ
れ、不安定で
不確実な状況
だ。建設業界
も大変革期にあり、特に担
い手確保が最大の課題。採
用、ブランディング、人事
戦略の3プロジェクトによ
り解決を目指す。社会から
必要とされる企業として誇
りと責任を持ち、未来志向
でアクティブに挑戦する。

変化に対応 本格化

加藤聰加藤総業社長
今年は庄内・酒田が大きな変

化を迎える。
酒田商業高跡
地や中心市街
地再開発、洋
上風力発電の事業化に酒田
港の基地港湾化、東北公益
文科大の公立化など地域課
題への対応が本格化する。
SDGsとカーボンニュート
ラルポートを事業の中心
に据え、老舗企業として「不
易流行」を実践する。

国内生産を高める

上野隆一ウエノ社長
コロナ禍で最も大きな学び

は、海外生産
は常にカント
リーリスクが
付きまとうと
いうこと。困難ではあるが、
新しいコイルや巻き線装置
を開発し、そのコイルを顧
客に買ってもらうことによ
り、手巻き比率が高い海外
生産から国内生産へ移し、
国内比率を高めることが今
年の課題だ。

活性化へ事業展開

加藤秀明米沢信用金庫理
事長 今年も地元企業の經
営改善と販路

拡大などの本
業支援、個人
の財産形成の
お手伝いを中心据え、お
客さまにしつかり寄り添い
ながら、地域活性化のため
のさまざまな事業展開を図
る。3年後の創立100周年
年に向け、イルミネーション
や桜の植樹を通じた地域
貢献にも努めていく。

前向きに開拓、創造

長沼俊一山形航空電子社
長 不透明感が増す中、電
子部品の事業

環境もさらに
厳しく大きく
変化するだろ
う。何事にも常に前向きに
開拓し、創造し、実践し、も
のづくりを通じてグローバ
ルにお客さまのパートナー
として貢献していく。今春
の新棟竣工を機に地域と
も一層連携し、その期待に
しつかり応えていきたい。

深く考察進め挑戦

寒河江浩一山形新聞社長
・主筆 旧年は、おのが命

や民主主義、
そして身近な
日常生活を守
るにはどうす
ればいいのかなど、根源的
な問いを突きつけられた。
かつて経験したことのない
混迷の中につつて、新年は
何が本当に大事なのか深く
考察を進め、未来に希望を
持つて果敢に挑戦すること
が求められている。